

平成28年住宅用火災警報器奏功事例

No.	発生月	発生日時	出火建物概要	出火原因	焼損程	概要等
1	1月	調査中	2階建て共同住宅	爬虫類用保温球が飼育ケースに落下	ぼや	プラスチック製の収納ボックスでロシア陸ガメを飼育していたところ、温度管理用の保温球が、吊り下げられていたロープから落下し、ボックスに敷いてあったヤシガラへ着火、火災に至ったもの。なお、住人が留守であったため、共同住宅の他の住人が火災となった部屋に設置してあった住宅用火災警報器の鳴動を聴き、換気口から白煙を出ているのを確認、119番通報したもの。
2		4時30分頃	木造2階建て専用住宅	認知症の男性が屋外と思い込み、室内において焼却行為をしたもの。	ぼや	認知症の男性が1階の居間を屋外と思い込み、床に置いてあった着替えの服をゴミと勘違いし、その場において焼却したもの。階段に取り付けられた住宅用火災警報器が鳴動、2階で就寝中の家人がこれに気づき、鍋等に水を汲み消火したことで大事には至らなかった。
3	2月	0時00分頃	鉄骨造2階建て共同住宅	ガスコンロの使用放置	非火災	居住者が1階台所のガスコンロでカレーの入った鍋を温めたまま、隣の居室で居眠りをしてしまい、居室の住宅用火災警報器の鳴動と焦げたような臭いと白煙に気づき、ガスコンロのスイッチを切り、鍋を冷やした。白煙に気付いた隣人が通報した。
4		12時00分頃	診療所併用住宅	ガスコンロの使用放置	非火災	1階診療所の従業員が休憩室で警報音と異臭に気づき、外階段から2階に上がると、室内から煙が出ているのを発見し119番通報したもの。 2階住居内台所のガスコンロに置かれた両手鍋内の食材が焦げた状態で、鍋及びコンロ周囲に焼損はなかった。
5		23時07分頃	木造サイディング壁スレート葺き2階建て専用住宅	ガスコンロの使用放置	非火災	1階台所のガステーブルに鍋をかけた調理していたことを忘れてしまい、1階寝室で襖を閉めくつろいでいると、食材が焦げ煙が発生、2階階段上部に設けられた住宅用火災警報器が発報、警報音に気が付き襖を開けたところ、リビングに煙が充満していたため、台所で鍋をシンクに移し、玄関から屋外に避難した。なお、ガステーブルの器具栓スイッチは開の位置で、過熱防止装置の作動により火は消えていた。
6		3時20分頃	木造1階建て一般住宅	洗濯物がハロゲンヒーターに落下	全焼	屋内 テラスに干されていた洗濯物がハロゲンヒーターに落下し着火、就寝中であった家人は住宅用火災警報器の警報音に気づき、廊下を確認すると煙と炎が見えたため、家族3人は窓から屋外へ避難した。付近住民が119番通報した。負傷者なし。
7		17時17分頃	鉄筋コンクリート造3階建て共同住宅	たばこの不始末	ぼや	家人がたばこの吸殻をビニール袋に入れ、こたつ布団の上に置き外出したところ、たばこの火種が残っており、こたつ布団上で無炎燃焼を継続、帰宅した隣人が、出火住居玄関付近で、住宅用火災警報器の鳴動音、煙及び焦げ臭いにおい気づき、119番通報した。
8	3月	3時50分頃	鉄骨造2階建て共同住宅	ガスコンロの使用放置	非火災	居住者が飲酒后、ガスコンロに鍋をかけたまま就寝。 友人が訪問したところ、焦げた臭いがし、住警器が鳴動していた。玄関ドアが開いているもストッパーがかかっており、開放できなかったため、119番通報したもの。 なお、鍋の煮物が焦げたもので火災の事実なし。
9		11時50分頃	鉄骨造2階建て共同住宅	ガスコンロの使用放置	非火災	家主が煮物(キンカン)が入った鍋を火にかけてそのまま外出。台所と寝室に設置された住宅用火災警報器が鳴動し、その鳴動音に気付いた近隣の住人が119番通報したもの。 調査の結果、鍋の煮物が焦げたもので、火災に至らず。
10		4時30分頃	賃貸住宅(長屋)	不明	部分焼	賃貸住宅(長屋)の1階(出火当時無人)部分から出火。直上階である2階(別世帯)の居室に設置された住警器が作動し、当該2階の住人が通報した。怪我人等は無し。
11		19時00分頃	共同住宅	ガスコンロの使用放置	非火災	台所内のガスコンロに鍋を置き、火を点けたまま外出、付近住民が異臭及び住宅用火災警報器の鳴動に気づき、警察へ通報、警察から消防へ119番通報を受ける。 鍋の中の物が焦げたのみであり、火災に至らなかったものである。
12		18時52分	共同住宅(耐火)	ガスコンロの使用放置	非火災	家人がガスコンロを消し忘れて外出したため、鍋の煮物が焦げたもの。隣人が鳴動に気づき通報した。
13		16時25分頃	木造2階建て住宅	グリルの使用放置	非火災	居住者がグリルで魚を焼き、火を点けたままその場を離れたため、魚が焦げ、発生した煙を住宅用火災警報器が感知し作動したもの。(一階リビング) その後、警報器の鳴動音及び白煙に気づいた居住者がグリルのスイッチを切ったため、火災に至らなかった。
14	4月	5時10分頃	木造2階建て専用住宅	仏壇のローソクが鈴布団に落下したもの。	全焼	就寝中の孫が住宅用火災警報器の鳴動に気づき火災を発見し、寝ている祖母に声をかけて避難を実施、祖母が通報を行なったもの。負傷者なし。
15		13時30分頃	木造モルタル造りスレート葺き2階建て簡易宿所併用住宅	ガスコンロの使用放置	部分焼	簡易宿所及び住宅兼用の1階台所で揚げ物に使用した食用油を処理するため、ガスコンロを点火し、温まった鍋の食用油に廃油処理剤を入れて溶かした。その後、ガスコンロを点火したことを忘れ、隣の和室で昼食をとっていたため、時間が経過し過熱により出火した。廊下の連動型住宅用火災警報器の鳴動に気づき、台所の戸を開けると部屋中に煙が立ち込め、鍋から火が立ち上がっているのを発見、鍋を床に下ろし、濡れた布巾を被せて消火した。消火の際、両手(熱傷Ⅰ度)、両足(熱傷Ⅱ度)を負傷した。
16		10時54分頃	木造2階建て一般住宅	ガスコンロの使用放置	非火災	家人が鍋に野菜を入れてガステーブルの火を点けたまま、買い物に出かけて、台所に設置された住宅用火災警報器の鳴動音に近隣の住民が気づき外に出てみると、白煙が出ていたため、119番の通報及びプロパンのガスボンベのcockを開めた。
17		14時51分頃	共同住宅	ガスコンロの使用放置	非火災	居住者が、ガスコンロに水を張りレトルト食品を加熱していたが、それを忘れて外出し、住宅用火災警報器が鳴動したもの。 下階住人が警報音に気づきベランダに出たところ上階の警報音であったため上階玄関に行き呼びかけるも反応はなし。そのため管理会社に通報し、管理会社が119番通報したもの。
18		9時14分頃	木造2階建て専用住宅	ガスコンロの使用放置	非火災	近隣住民が住宅用火災警報器の鳴動音を聞き119番通報したもの。家人2名のうち1名はガスコンロを点火し外出、在宅の1名は就寝中で住宅用火災警報器の鳴動音に気づきガスコンロの火を消した。なお、消防隊が進入した際、台所内に煙が充満していた

No.	発生日時	発生日時	出火建物概要	出火原因	焼損程	概要等
19	5月	17時03分頃	木造2階建て住宅	こどもの火遊び	ぼや	園庭にいた保育士が住宅用火災警報器の鳴動音に気付き、隣接する一般住宅の2階の窓から煙が出ていたので119番通報をした。
20		8時00分頃	耐火3階建て複合ビル	調査中	部分焼	居住者が留守中、居室内の布団及び座布団が燃焼し、住宅用火災警報器が作動したものの、警報音を聞いた別室の住人が119番通報をした。
21		23時00分頃	共同住宅			居住者が、居室内で自分の衣類を丸めて蚊取り線香の代わりにし、それに火を着けて煙を焚き、そのまま外出した。その煙を住宅用火災警報器が感知して、鳴動したものの、その音を聞いた隣の住人が119番通報したものと判明し、火災として取り扱わない。
22		0時45分頃	木造2階建て住宅	たばこの火の不始末	ぼや	居住者が2階居室で喫煙していたが、火の不始末によりたばこが座ぶとんに落下した。その後、座ぶとんに着火し、発生した煙を住宅用火災警報器(以下「住警器」という。)が感知し作動したものの、居住者が2階寝室で就寝中、住警器(階段上端設置)の鳴動音が聞こえたため確認すると、2階居室の座ぶとんが燻り煙が出ていた。座ぶとんを、玄関先(屋外)にある水が入っているカメの中に入れ消火した。
23	6月	22時00分頃	木造2階建て共同住宅	電気コンロの使用放置	ぼや	家主が鍋を火にかけてそのまま外出。寝室に設置された住宅用火災警報器が鳴動し、その鳴動音に気付いた近隣の住人が119番通報したものの。
24		20時40分頃	鉄骨造3階建て専用住宅	ガステーブルの使用放置(天ぷら油)	部分焼	居住者が、じゃがいもを天ぷら油で揚げたまま、犬の散歩に出て放置した結果、発火したものの、リビングにて就寝していた夫が住宅用火災警報器の鳴動に気づき、風呂に入っていた息子と共に、風呂の湯をバケツに入れて使用し初期消火を実施した。
25	7月	7時5分頃	木造2階建て住宅	てんぷら鍋の掛け忘れ	部分焼	現場北側住宅に居住する発見者が、自宅敷地内(屋外)において作業中、住宅用火災警報器の鳴動音に気が付き、南側の住宅から煙と炎を確認した。玄関扉が施錠されていたため、住宅内に入ると煙が室内に充満しており、台所まで行くとガスコンロから天井付近まで炎が立ち上っているのが確認できた。妻に119番通報を依頼し、タオル等を水で濡らして南側の住宅に行き、炎に被せ消すことができた。まだ天井付近に火が確認できたので、台所にあった茶碗に水を汲み何度か掛けると完全に消すことができた。
26		19時06分頃	木造瓦葺きトタン壁平屋建て専用住宅	洗面台と一体型のミラーキャビネットのスイッチ付きコンセント部分の配線の短絡によるものと推定。	ぼや	所有者が居室でテレビを見ていると「ボン」という音がして、部屋中の電気が消え、台所に設置されている住宅用火災警報器(親機・煙式)が発報し、居室に設置されている無線式連動型の警報器が鳴動したため、台所を確認すると、台所隣の廊下に設置されている洗面台一体型のミラーキャビネットのスイッチ部分から炎が上がっているのを発見した。初期消火は、洗面ボウルに置いてある洗面器と台所のシンクに置いてある金だらいを使用し、水を3回かけ消火した。
27		7時57分頃	木造3階建て専用住宅	ガスコンロの使用放置	非火災	居住者がゆでたまごをつくるため、水の入った鍋を火にかけてそのまま就寝してしまったところ、住宅1階台所に設置された複合型住宅用火災(煙)・ガス・CO警報器が発報したものの、なお、居住者は鳴動音に気付かず、鳴動音を聞いた近隣の住人が通報したものの。
28		2時頃	木造2階建て店舗併用住宅	不明	部分焼	発見者が住宅2階で就寝中、階段上部の住宅用火災警報器が鳴動していることに気付き、部屋を出て音を止めた際に煙の臭気を感じる。室内に異常はなく、開放していた窓から軒下を覗くと炎が見えたため、急いで外に出て水道水(ホース)をかけ、初期消火に成功し、火災の拡大を防いだ。
29	8月	21時00分頃	鉄骨2階建て共同住宅	たばこの火の不始末	ぼや	居住者が不在中に何らかの原因でこたつの上にあった灰皿からたばこの吸い殻が落下し、掛ふとんを一部焼損した。当該居住者は不在であり、上の階に住む住民が住警器の鳴動音に気付き、119番通報及び初期消火(水道水)を実施したものの。
30		1時20分頃	RC造地上4階建て共同住宅	ガスコンロの使用放置	非火災	通行人が、住宅用火災警報器の鳴動に気付き、音の間こえる方を見ると部屋の中から煙が出ているのが見えたため、火災だと思い消防へ通報したものの、家人は、鍋に火をかけたまま入浴しており、鍋の内容物が焦げ、煙が発生し、寝室に設置されていた住宅用火災警報器が鳴動した。消防隊到着時、家人は入浴中で鳴動に気付いていなかったが、鍋の内容物が焦げたのみで、他に燃焼物件は認められず、火災に至らず。
31		18時25分頃	防火構造平屋建て専用住宅	たばこの火の不始末	ぼや	近隣住民が庭先の清掃中に住宅用火災警報器の鳴動音を聞き、窓から煙が出ているのを発見したため、119番通報したものの、なお、本火災は、居住者が外出前に消したたばこの吸い殻を空缶に入れたが、たばこの火種は消えておらず、敷いてあった布団に燃え移り布団の一部を焼損したものの。
32	9月	12時20分頃	一般住宅	ガスコンロの使用放置	ぼや	家人が蚊取り線香に火をつけるため台所のガステーブルのバーナーを使用し、居間に移動ししばらくした後に、住宅用火災警報器が鳴動。台所に行くと、ガステーブルの炎が布巾に着火し火煙が上昇していたものの。
33		21時30分頃	木造2階建て一般住宅	電気配線のトラッキングによる	部分焼	所有者が1階の居室にいたところ、住宅用火災警報器の鳴動音に気付き、2階へ行くと寝室南東付近から火煙が立ち上がっていたため、自宅内の住宅用消火器及び2階ベランダにある水道からホースを伸ばし初期消火を行った事後聞知火災
34		0時35分頃	木造2階建て一般住宅	不明	半焼	住人3人が2階で就寝中、階段踊り場に設置されている住宅用火災警報器の警報音に気づき、階段部に白煙が充満していたことから、携帯電話にて119番通報した後、2階南側のベランダに2人、北側の部屋に1人避難したものの、その後、到着した消防隊により住人3人全員が救助され、このうち2人が負傷したものの。

No.	発生日	発生日時	出火建物概要	出火原因	焼損程	概要等
35	10月	20時42分頃	鉄骨造3階建て共同住宅	天ぷら油	部分焼	家人が夕食を作るため、油の入ったフライパンを火にかけ自分の部屋に戻り、数分後に台所に戻るとフライパン油から火が出ているのを発見。家人はそのまま避難したが、住警器の鳴動で駆け付けた近隣住民が、粉末消火器で消火に成功したものの。
36		11時頃	鉄骨造2階建て共同住宅	たばこの火の不始末	部分焼	病院職員が家人であるリハビリ患者と連絡が取れないため、アパートを尋ねたところ、室内で住宅用火災警報器の鳴動音が聞こえたため、消防へ通報。到着した消防隊が室内に進入し、布団が燃えているのを確認、消火したものの。
37		23時17分頃	鉄骨造2階建て共同住宅	ガスコンロの使用放置	非火災	付近住民が、焦げた臭いがしたため、外に出て周囲を確認すると、隣接する共同住宅の1階居室で住警器の鳴動を確認、玄関の鍵が開いていたため、ドアを開放し中を確認したところ室内に煙が充満しており、人が倒れているのを発見した。 発見者である付近住民は、室内に煙が充満していたため、室内には入らず119番通報し、消防隊の到着を屋外にて待っていたものである。 消防隊到着後、屋内進入し居住者を確保し状況を確認したところ、居住者が飲酒後、ガスコンロに鍋をかけたまま就寝したもので、鍋の調理品が焦げたものと判明、火災の事実なし。
38	11月	2時00分頃	鉄骨造2階建て共同住宅	調理中の鍋の放置	非火災	居住者が魚の入った鍋を火に掛け、居間でテレビを見ていたところ、寝室の住宅用火災警報器の鳴動音に気づき、台所に行くところ室内に煙が充満していたため、ガステーブルの火を消し、換気を行った。 なお、付近住民が鳴動音と焦げ臭いにおい気づき、119番通報したものである。
39		21時30分頃	RC造 2/0 1階住居 2階アパート	ガスコンロの使用放置	非火災	居住者の男性70歳が、20時30分頃ゆで卵を作ろうと鍋に卵を2個入れそのままコタツで寝てしまい卵を焦がした。発生した煙により住宅用火災警報器の鳴動し、その音に気付いた大家さんが合鍵を使い、室内に入りガスコンロの火を消したものの。卵が焦げたのみで他の焼損なし。負傷者なし。
40		2時25分頃	専用住宅(木造2階建て)	バッテリーの不良	ぼや	当該住宅1階のリビングにて、インターネットにより購入した製品(インナー手袋)のバッテリー(リチウム電池)を充電していたところ、警報器の発報で家人が異常に気づいた。寝室から駆けつけた家人が火炎を認め、水道水で消火に成功した。その後、消防機関に通報した。(怪我人などは無し。)
41		12時08分頃	耐火構造4階建て共同住宅	たばこの火の不始末	ぼや	4階建て共同住宅の1階において、住人の寝たばこによる火の不始末により、布団から発生した煙を、住宅用火災警報器が感知し作動した。 火元者が、排煙のために窓を開けた際に、上階の住人が警報音・煙・臭いにおい気づき消防機関に通報した。迅速な通報により、出火から消防隊の現場到着までの時間が短く、火災の拡大を防いだ。
42	12月	16時40分頃	木造2階建て共同住宅	考え違いにより使用を誤る。	ぼや	お湯を沸かすため、2口ある電気コンロの片方に水の入った鍋を置き電源を入れたつもりが、誤って台布巾の置いてあったもう片方のコンロの電源を入れ、その場を離れ放置したため、台布巾から出火したものの。住警器が鳴動したことで家人が火災に気づき、汲み置きしてあった鍋の水で消火した。
43		13時03分頃	鉄骨造3階建て事務所併用共同住宅	ガスコンロの使用放置	ぼや	専用住宅の居住者が、自身の所有する建物の共同住宅部分で住警器が鳴動していることに気付いたため確認したところ、3階一室のトイレの窓から白煙が出ており、室内で住警器が鳴動していた。居住者は不在であったが、玄関の鍵が開いていたため、室内に入ると、ガスコンロに置かれた鍋から煙が出ており、木製の鍋蓋が燃えていたもので、水道水をかけて消火したものの。
44		7時20分頃	鉄筋コンクリート造5階建て共同住宅	たばこの火の不始末	ぼや	当該共同住宅2階の住人(出火部屋とは別の)が、煙及び警報器の鳴動に気づき、同共同住宅1階に居住する大家に連絡。大家は、煙発生部屋の状況を外観観察した後、管理会社に連絡。管理会社から消防機関へ通報され事後聞知扱いとなる。通勤後職場にて連絡を受けた火元部屋の住人が、帰宅後入室し、煙の残り出る部分に水道水をかけた。(怪我人などは無し。)
45	17時30分頃	2階建て専用住宅	ガスコンロの使用放置	非火災	居住者の女性が1階の台所で鍋に煮物の食材を入れ、火を消し忘れたまま買い物に行ったため食材が焦げ、発生した煙で台所に設置してある警備会社設置の感知器が発報したものの。 警備会社が17時31分に覚知し、当住宅に連絡したが住宅内に人がおらず確認が取れないことから警備会社が119通報したものの。消防職員及び警備会社職員が共に住宅内に入り、コンロのスイッチを止めたものの。	